

## Meet the Worldにおける取組

### ーコミュニケーション能力の育成と表現力、国際感覚を養う活動を通してー

#### (1) 目的

- 生徒が ALT と英語を使って交流する体験を通して、日頃の学習の成果を発表するとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の基礎を養う。
- ALT に直島の見所やアートなどを紹介する活動を通して、自国の文化や地域に対する理解や認識を深め、豊かな国際感覚を養う。
- 教員自身が英語によるコミュニケーション活動への理解を深め、自己研修の機会とする。
- 香川県内からの ALT と実際に交流することで、国内にいながらでも英語は役に立つという、英語の有用性を実感する。

#### (2) 内容・方法

今年度は、昨年度に引き続き県内から 17 名の ALT を招いて開催することができた。小学校での活動後、第 2 部として直島の魅力について案内をしながら紹介した。小 5 と中 1・中 3 が「家プロ」や本村の紹介を、また小 6 と中 2 が「ベネッセアートサイト」にあるアート紹介をした。今年度は中 3 が宮浦港でのお出迎えやレストラン紹介などを担った。アートやお店を紹介しながら、ALT との会話を楽しんだり、ALT に質問にしたりするために、班員やクラスメートと協力した。

#### (3) 各学年で実施した内容について

##### 【1年生】

「家プロ」周辺にある「護王神社・角屋・石橋・はいしゃ」の 4 つの場所の道中にあるアートやお店について英語で紹介した。準備段階として、実際にフィールドワークをして、生徒が直島のお薦めの場所やものについて全体で共有し、4 つのグループごとに準備を進めた。それぞれのグループが伝えたい物を英語で説明して、ALT との会話を楽しんでいた。



##### 【2年生】

小 6 がベネッセハウスの外にあるアート作品を説明し、中 2 がベネッセハウス内にある作品についての説明をした。準備段階として、現地学習をしてベネッセハウスの方から必要な情報を日本語で聞き取り、何を伝えたいかを班で協力しながら原稿を作った。ALT と道中での会話を楽しめるよう、授業で Q&A を繰り返し行い、生徒が ALT 役となることで一問一答ではなく、会話を続ける練習を行い、当日その成果を発揮することができた。



##### 【3年生】

家プロジェクトを紹介する 1 年生のグループに 2 名ずつ入り、サポーターの役割を果たした。その他の生徒は港でのお出迎えやバスに乗車する際の誘導、おすすめレストランやカフェの紹介など、1・2 年生とはまた違った形で ALT と交流を深めることができた。

#### (4) 成果と課題

成果として、事前学習を通して、生徒自ら直島のアートや良さについて考え、英語で表現をすることができた。中 1 は事前に本村を歩いて自分が紹介したいところを探し、中 2 はベネッセの方の作品の詳しい説明をもとに、タブレットなどを活用して意欲的に準備に取り組めた。2 つ目は 3 年生の役割を明確にできたことである。今年度は、港でのお出迎えや昨年度の ALT からの要望であった午後の過ごし方やレストランなどをおすすめすることができ、ALT も大変喜んでくれた。3 つ目は、昨年度は家プロで南寺を周っていたのを護王神社に変えることで時間にゆとりをもって活動することができた。また、子どもたちが実際の英語に直接触れる機会を設けることができたことは最大の成果といえる。事前学習の 1 つとして、英語のみで班でタスクをこなす「Egg Drop」では班員と意思疎通をするために、自分たちの知っている英語を使って協力して活動することができた。試行錯誤する中で、生徒は英語のみで意思疎通する難しさや楽しさを感じることもできた。

課題としては、ALT との会話では質問をしたり、答えたりすることはできたが、そこから会話をつなげることを難しく感じる生徒がいたことだ。普段から帯活動として行っている Small Talk をはじめ、英語で会話を続ける活動の中で繰り返し練習していきたい。

#### (5) ALT からのコメント

- 子どもたちが積極的に英語を話す姿に感銘を受けた。ぜひ来年も参加したい。